



彼理日本紀行

全拾壹本

洋学文庫
文庫 8
C 235
4



地理日本紀行卷之十

賴服 寄人

内田又五郎





彼理日本紀行卷之十無人島部



瀬原 壽人
内田又五郎



無人島ハ日本海中ニ在テ其地形殆ト北南ニ向
テ流レ北緯二十六度三分ト二十七度四十五
分ノ間ニ位ス此島ノ中心ヲ通スル線ハ東經百
四十二度十五分ニ在リ本島ハ一千八百二十七
年文政十年英國ノ加比丹「ビーク」氏其測量家ヲシ
テ測ラシメ漫リニ其説ヲ以テ正説トシ既ニ各
義アル事ヲ知ラス彼等カ始テ檢出セシ如ク唱



ハテ本島ニ名ヲ命シ其北ニ在ル者ヲ「パリ」群
島ト稱シ中央ニ在ル三島ノ一ヲ「ペール」島其ニ
ラ「ブッランド」島其三ヲ「スタップレット」島ト稱シ
又其南ニ在ル者ヲ「バイレ」島ト稱ス此南ノ「バ
イレ」島ハ鯨獵船ノ船頭「ロッフィン」氏一千八百二
十三年文政始メテ本島ニ到着シテ其地位ヲ西
國ニ報告シ己レノ名ヲ被ラシメ「コッフィン」港ト名
ツケタリ然ルニ其後本島ニ何ノ名称モ無リケ
レハ今予天文家ノ碩學「フランシス・バイレ」氏
ノ姓ヲ取テ「バイレ」港ト名ケシナリ又「ペール」

島ノ大港ニハ加比丹「ビィチュー」氏既ニ名ヲ命シ
テ「ロイド」港トイヘリ
本島ハ一千六百年間ヨリ普ク世人ノ知ル所ナ
ルニ一千八百二十七年文政至リ加比丹「ビィ
チュー」船頭「コッフィン」兩氏偶、島中ニ到着シテ自ラ始
テ檢出セシ地トシ諸所ニ地名ヲ命セシハ實ニ
面目ヲ失フニ似タリケムヘル氏ノ説ニ遙ニ前
代一千六百七十五年延宝日本人既ニ本島アル
事ヲ知り之ニ名ツケテ「ブナ、シマトイヘリ」
「シマ」亦人ナキ島ノ義ナリ又同氏ノ説ニ據レバ

一千六百七十五年日本船一隻大風ノ日ニ当リ
八丈島ヨリ纜ヲ解キ出帆セシニ風ノ爲ニ流サ
レテ偶々大ナル一島ヲ啓明セリ此島八丈ヨリ東
方ニ当リ日本里數ニテ三百里ヲ隔ツトイヘリ
備加比丹「ビ」チエ「船頭」コッ「フ」シ「等島中ニ上リ見
シニ更ニ人跡オケレ共氣候甚々温和ニシテ地
質肥腴又清水ヲ生シ多ク草木繁茂シ殊ニ亜力
樹造亜力トイフ酒ヲ多シ是ヲ以テ考フレハ亜力
樹ハ本暖國ニ生スル樹ナレハ本島ノ地位正東
ニ当ラスシテ多ク南方ニ当ルト察セラレ日本

人モ亦本島ヲ無人ノ島嶼トス然レ其海濱ニ
海魚蟹類ノ多キヲ實ニ量ルベカラスシテ其大
ナルハ四「ヒ」ト乃至六「ヒ」トノ者アリトイヘ
リ提督彼理氏今「ケム」フル氏ノ書記スル所ト左
ニ挙ル日本人ノ書記スル所トヲ合セ見ルニ其
土地形勢實ニ符節ヲ合セタルカ如シ○左ノ抄
譯ニ載ル所ノ亜力樹ハ「ペ」ール島ニ在リ

「カラ」ップ「ロ」ツ「各」氏「反」譯「サ」ン「コ」ク「ウ」ラ「ン」ト「シ」
ツ抄説「カ」ラ「ッ」ポ「ロ」ツ「各」氏「反」譯「サ」ン「コ」ク「ウ」ラ「ン」ト「シ」
ル説「カ」ラ「ッ」ポ「ロ」ツ「各」氏「反」譯「サ」ン「コ」ク「ウ」ラ「ン」ト「シ」
意ナリ

本島ノ本名ハラガサ、ワラ、シマ小笠原島ナレトモ
通例世人之ヲ「モン、ニン、シマ」ト称ス漢名「ウ、ジ
ント」トイフ共ニ人ナキ島ノ義ナリ今予此
各ヲ取テ以テ此書ニ載ス「ラガサワラ、シマ」ト
イフ名称ハ本島ニ始テ渡来シ島中ノ因ヲ作
リシ人ノ名ヨリ取ル即チ二百年前南亜米利
加ノ一部ヲ「マゲルラントイフ人」換出シテ「マ
ガラニア」各ツケン同例ナリ
無人島ハ伊豆國ノ南東海中日本里数二百七
十里ニ在リ伊豆ノ下田ヨリ「ミアケシマ」
島ニ宅

マテ十三里「ミヤケシマ」ヨリ「シンシマ」新マテ
七里「シンシマ」ヨリ「ミコウラマテ」五里「ミコウ
ラ」ヨリ八犬マテ四十一里八犬ヨリ無人島ノ
最北部マテ百八十里其最南部ニ至レハ二百
里ニ及フトイヘリ
無人島ト称スル群島ハ北緯二十七度ニ在リ
島中ノ氣候甚タ温和ニシテ高山ノ際ニ數十
ノ溪谷ヲ生シ小流滾々トシテ漲リ自然ニ肥
腴ノ地質ナリ是故ニ蚕豆小麦粟其外諸種ノ
穀類其蔗ヲ生シ又「ナンキ」ト称スル木即チ

巴豆樹及口蠟ヲ製スル木ヲ生ス漁獵極メテ
多ク以テ産業ト為スヘシ
島中ニ草木森々トシテ繁茂スレ共四足ノ獸
類ハ甚タ少シ木ニハ頗ル巨大ニシテ一人ノ
手ニテ抱キ得サル者アリ又其高サ支那ノ三
十尋即チ西洋ノ二百四十ヒトニ至ル者少
カラス其木質堅牢ニシテ美麗ナリ此外シラ
一、口、ウ、ラ、ン、グ、リ、ヲ、蓋漢一名「チャマロプス、エキ
セルサト稱スル高木椰子アレカバルハ木支
那ニテ「ピョー、アンチト唱フル実ラ生スル木

カチラウ名木紫檀「トト「ミ漢名樟腦「チュツア、ヒ
グスラフ、マウンテ「ン山中ニ生スル管状地
上ニ横ハリ生シ長春藤ノ葉ニ似タル一種ノ
業アル高キ木肉莖莖桑樹等ノ類アリ
草類ハ撒兒沙巴里兒刺即チ山飯來東桂「アサ、
シラシ、キ「ハ蓋「シ漢ト稱スル藥草等アリ
鳥類ハ「ハコ「キト「ツ鳥ノ數種鷓鴣鷓鴣白鷓ニ
類似シタル一種ノ鳥ニテ体格ノ長キ海鳥居
住ス此鳥類皆家畜ノ如ク徒手ニテ捕ヘ得ヘ

本島ニ生スル礦山物ノ主宰ナル者ハ明礬緑
礬各色ノ石類及ヒ化石ノ種類ナリ
海中ニ鯨魚多ク又大ナル刺蝮大具及ヒ世ニ
海中ノ胆ト称スルイシニノ類アリ且海中ヨ
リ産スル物品極メテ多ク實ニ枚挙スルニ遑
アラス

日本延宝三年西洋紀元一千六百七十五年長
崎ノ住人「シマエサエモ」門ノ屋左衛門「ビソ、サエ
モ」末「シマエ、タイロ、サエモ」門ノ屋太郎左エ
ノ三人天文地理兩學ニ達シタル者ナレハ江

戸小網町ニ住スル船工棟梁八兵衛トイフ者
ニ誘引セラレ支那ノ精巧ナル船工カ作りタ
ル一大船ニ乗り船中ノ人負三十名ニテ伊豆
國下田ニ到リ本地ノ海軍局ヨリ路票ヲ得テ
四月五日下田港ヲ發シ八犬島ニ碇泊セリ夫
ヨリ又南東ニ向テ奔リ八十箇ノ群島ヲ検出
ス是ニ於テ本島ノ密図ヲ寫シ加フルニ島中
ノ氣候位置及ヒ産物ヲ以テシ全年六月二十
日下田ニ返着シ図説ヲ上梓シテ之ヲ公行セ
リ

右三人ノ上梓シタル圖説ニ「ミコウラトハ大
トノ間ニアル黒瀨河ト称スル急流アルイラ
載サルハ實ニ怪ムヘシ此黒瀨河ノ幅ハ二十
マ^リ即千日本里數ニテ半里餘其長サハ大約
一百里東ヨリ西ニ向テ峻急ニ流ル東ヨリ西
ルトイヘルハ三國通覽ヲ著セル此迅潮冬季
人ノ誤ナリ西ヨリ東ニ向テ流ル此迅潮冬季
春季ヨリモ夏季秋季ニ於テ最モ強シマエ
屋島等ノ無人島ニ到リシハ閏四月初旬ニシテ
其歸リシハ六月下旬ナレハ潮勢頗ル緩ナル
カ故ニ此危キ急流ヲ知ラサリシ乎實ニ怪ム

ハキノ至リナリ
無人諸島八十箇ノ内ニ於テ其最モ大ナルハ
周圍十五里ナレハ壹岐ヨリ少シ小ナリ又之
ニ次テ大ナルハ其周圍十里ナルヲ以テ大約
天草島ノ大サナリ此二島ノ外ニハ島アリ其
周圍二里乃至六七里ニ及フ此十島ハ平地ア
リテ人民居住スヘク又能ク穀類ヲ生ス島内
氣候煦温ニシテ耕作ニ宜シ是故ニ他洲ノ人
ニテモ到リ住スヘシ島中諸所ニ各種ノ貴キ
産物アリ右十島ノ外叢爾タル七十箇ノ小島

ハ岩石我々トシテ峙立シ一物モ生シ難キ地
ナリ
嘗テ本島ニ罪人ヲ送り一地ヲ開墾シテ耕作
セシメシトアリ罪人等群居シテ村落ヲ爲シ
帝國日本諸洲ニ生スル物品ト同様ノ物ヲ産
セリ何人ニテモ本島ニハ一年ニ一度往来シ
得ヘケレハ交易忽チ盛ナルニ至リ其裨益ハ
莫大ナルヘシ此形勢ヲ以テ餘ハ皆推知スベ
シ
日本安永年間即チ西洋一千七百七十一年ヨ

リ一千七百八十年間予官命ヲ受テ肥前國ニ
赴キ和蘭人「アトレンドゥエルレ」ヘ「ト」氏ト相
交リシ時全氏予ニ日本ノ南東ニ當リ二百里
ノ海中ニ於テ著作家某氏「ウロスト、エーラン
ド」ト稱スル島嶼アル事ヲ唱ヘ圖説ヲ示セリ
「ウロスト」ハ荒蕪ノ義「エーランド」ハ島ノ義ト
イヘリ全氏ノ説ニハ本島未タ人民居住セサ
レドモ諸般ノ草木能ク繁生スレハ「将来」人民
ヲ移シ居住セシムヘシ右ノ如ク地質肥腴ノ
島ナレバ日本ヨリ遠路ヲ厭ハズ植民セハ必

ス裨益アルベシ遙ニ蕪茫トシテ隔リタル和
蘭國ヨリ殖民シテハ其利極クテ少カルベシ
トイヘリ壽人按スルニ此一節ニテ予トイヘ
ナラヘル
今此註文ノ末ニ無人島一件ニテ予カ和蘭人
ヨリ聞キ肺肝ニ銘スヘキ數十言ヲ載セ以テ
後人ニ示スノミ
右本條ニ述ル所ノ大蟹トイヘルハケムヘル氏
ノイヘル大ナル綠色ノ亀ヲ日本人恐クハ誤リ
認メテ大蟹トイヒシナラン

右ノ註文ニ述ル如ク日本人一千六百七十五年
延宝ニ當テ本島ヲ檢出ストイヒシカ一説ニ尚
三年ニ當テ本島ニ渡来ストモイヘリ英人ハ
其以前日本人本島ニ檢出ストモイヘリ英人ハ
本島檢出ノ事ニ於テ更ニ関カル所ナシ彼理氏
ハ是ヨリ先一千六百六十二年寛文四十頭ノ日
本船其海濱ヨリ暴風ノ為ニ流サレ偶^レト^レ港
ニ漂着シテ始メテ此島ヲ檢出シ本年冬季ハ本
港ニ在留シテ春暖ヲ迎ヘ日本ニ既リシト亞人
^カウ^ラリヨリ聞リ此時日本船中ニ些少ノ乾魚ノ
外他物ナキラ以テ島中ノ土人其貯フル所ノ食

料ヲ日本人ニ惠ミ與ヘシトナシ其後八年ヲ經
テ一千六百六十七年寛文七年ニ當リ佛蘭西船或ル
日無人島中ノ一島スタップレトニ出帆セシニ
遙ニ離レテ海岸ニ爛々トシテ火光ヲ放チタル
ヲ見出シケレハ小船ヲ送り検査セシメシニ日
本船破却シテ船中ノ人負大半溺死シ僅ニ五人
餘命ヲ繋キ實ニ惘然ノ状態ナリケレハ佛船ノ
將大ニ哀愍ノ心ヲ生シ彼ノ五人ヲ船中ニ乗セ
「ロイド」港ニ携ヘ行キ遂ニ之ヲ日本ニ送致スト
イヘリ其後我カ「シュスコイハン」ナヨリ出タル士

官ノ一船ニ偶スタップレトニ来着シテ右ノ船
ノ破却セシ痕跡ヲ見シトイヘリ亦以テ證トス
ヘシ士官等島中ノ一小港ニ上陸シ見シニ銅板
銅釘ナト尚存在セリ此餘物及ヒ其事跡ヲ以テ
察スルニ右ノ船ハ日本船ナル事必セリ又板具
ナト未タ腐敗ニ至ラス挫折ニ至ラザレハ久
シク年月ヲ經サル事モ證トスルニ足レリト云
ヘリ
上ニ拳ル鯨獵船ノ船頭「コッフヤシ」氏ハ其本國ヲ載
セサレハ何レノ國ノ人ナルヤ知ルヘカラスト

其姓字ノ連綴ヲ以テ考フルニ恐ラクハ亞國
人ナラン若シ亞國人ナル時ハ「ナンケットヨリ
出船シテ本島ニ到リ其一港ニ彼カ姓字ヲ被ラ
シメ「コップフィン」港ト名ケシナルヘシ然ルニ「ビ
」氏ハ本島ニ到リタルハ大ニ謙遜シテ其名ヲ
命セス「バイレ」島トイヒシトゾ此「バイレ」島
ハ土人南島ト称シ無人島ノ一部トス「ロイド」港
ノ南大約十二里^洋ノ海中ニ在リ加比丹「ビ
」氏英國ノ測量船「ブロッソム」船ヲ指揮シテ本島
ニ到着シ之ヲ英國王ノ属地トシテ英國ノ名稱

ヲ唱ヘシメシハ實ニ一千八百二十七年^{文政}ナ
リ然ルニ土人等英國ノ管下トナル事ヲ肯セズ
英國ノ加比丹「ビ」氏カ命シタル名稱ヲ唱
フル者ナシ之ヲ譬フルニ「ビ」氏北部群島
中ノ二島ヲ「ブクラン」ド「スタップレ」ト名ケシ
ニ土人等此名稱ヲ唱ヘス「ゴ」ト島「ホグ」島ト称
セシ類ナリ英國人ノ無人島ニ来着シテ其属地
トセシ年月ハ銅板ニ彫刻シ釘ニテ樹幹ニ固定
シアリツレ^比久シカラズシテ消滅セリ是故ニ
英國ヨリ無人島近海ニ航海セシ者ニ命シ島中

ニ上陸シ近隣ノ岡上ニ登リ英國ノ國旗ヲ翻シ
以テ英國ノ屬島タル事ヲ表セシム他人ヨリ之
ヲ見レハ英船ノ来着セシ事ヲ報スル者ノ如シ
土人ノ島中ノ人民ニテ百事十分ナレハ敢テ他
ノ管轄ヲ受ル事ヲ要セストテ政府ヲ設クル事
ヲ欲セス
英國ノ加比丹「^ビト^ク」氏本島ニ到リシ明年魯
國ノ海軍加比丹「^ロト^ケ」氏到着シテ英國ノ如
ク屬國トセシ式礼ヲ行ヒ又其私有トセリ
右ノ如ク諸説アレト本島ヲ檢出セシハ日本人

タル事實ニ明ケシ恐クハ日本人其初殖民シテ
直チニ又版圖セシナラシ日本人在住ノ時先ツ
伊斯巴尼亞船葡萄牙船獨逸船渡来シテ無人島
人ト通親シ其後無人英人魯人來船セシナルニ
シ伊斯巴尼亞ヨリハ教法ノ長官來リシ事ト見
ヘテ本島ヲ法語ニテ稱譽セシ事アリ土人某氏
イヘルハ予初メ本島ニ來着セシ時一枚ノ板ニ
本島ニ渡来セシハ魯人ヲ以テ濫觴トスト記セ
シ者アリシトイヘリ歐洲ヨリハ未タ本島ニ殖
民スル事ヲ謀リタル者ヲ聞ス

一千八百三十年ニ至リ亜人歐洲人等本國ノ男
女数人ヲ携ヘテ「サントウ」島ヨリ出帆シ無人
島ニ渡来セリ此行ノ先登ハ五名ニシテ亜人二
名「ナキニール、サウラリ」アルジン、ビ、チャピン
西氏英
人一名「リチャルド、ミルドチャム」氏丁林人一名「チ
ヤース、ジョンソン」氏「ゼノ」人一名「マテラ、マサラ」
氏ナリ彼理ガ本島ニ来着セシ時高残留セシハ
亜人「ナサニール、サウラリ」氏ノミ「ミルドチャム」氏
モ尚存命ナレド「ラドロネトイヘル」群島ノ一島
「ギアム」ニ轉任ストイヘリ「ゼノ」エ人「マサラ」氏ハ

既ニ物故シケレハ「サウラリ」氏尚壯年ニシテ美人
ナル其寡婦ヲ娶リ一子ヲ産タリ「サウラリ」氏自ラ
些少ノ田圃ヲ耕セシニ頗ル利アリトイフ又「サ
ウラリ」氏自ラ勤メテ蕃薯ヲ作り甘蔗ヲ蒸餾シテ
糖水酒ヲ製シ本島ニ往来スル鯨漁船ニ鬻キ一
時ニ数千ノ弗^{ドルラ}ヲ貯蓄スルニ至レリ其後三四年
ヲ経テ亜船一艘来着シ船中ニ「サウラリ」氏カ親シ
キ舊老友奸詐ノ悪漢^{ワルモノ}等ヲ携ヘ来レリ「サウラリ」氏
ハ「ストモ」知ラス彼ノ舊老友ト相親ニ貯タル数
千ノ弗ヲ出シ老友ト共ニ之ヲ地中ニ埋メタリ

悪漢等此事ヲ知リケレバ数月ノ間辭ヲ卑フシ
身ヲ謙リ益ガウリ氏ニ諂諛シ遂ニ其数千ノ帛
ヲ奪ヒ且婦人ヲ掠メ其家具ノ物品及ヒ旅記ヲモ
盗ミテ悉ク之ヲ賣却シ本島ヲ遁レ去タリ其後
悪漢等ホノルルニテ挿縛セラレケレバ婦人身
命ヲ抛チ一言ヲ答シイヘリケルハ我再ヒ無人
島ニ飯ルノ面目ナシ唯弗ヲ地中ヨリ掘リ出セ
シヤ否之ヲ探索セント欲スルノミト
無人島ノ地形ハ頗ル高ク岩石巍々トシテ峙立
シ噴火山タリシト粲然タリ本島ノ水際ニハ珊

瑚ノ小片散敷シ水辺ヨリ漸ク丘陵ノ斜地ニ登
レハ凹飯線地方ニ生スル青草滿地ニ叢生セリ
山上及ヒ諸所ニ散在スル岩石ハ前世界ノ激動
ニ由テ千形萬態ヲ顯シ之ヲ眺望スレハ城郭ノ
如キアリ塔ノ如キアリ又巨大ニシテ醜態ナル
猛獸ニ似タルモアリ島中岩石ノ間ニ孔ノ如ク
門ノ如キ通路アリ其形拾モ石工ノ鑿ヲ以テ穿
チタルニ異ナラス蓋シ此岩石ハ其初未タ流動
物タリシ時偶雨候ニテ其雨水山上ヨリ急ニ海
面ニ向テ流れ平面ヲ爲シテ溝渠ヲ生シ噴火ノ

変換ニ由テ斯ク異形ヲ顯セシ事分明ナリ此岩
石ノ異形ナルハ數百年ノ星霜ヲ經テ雨水ニ洗
濯セラルト魚依然トシテ更ニ磨滅セシ所ナ
ク頭ヲ圓ラシ之ヲ望メハ何人カ山上ニ登ラン
トテ新ニ石工ニ命シ堅石ヲ切り石壇ヲ設シ欵
ト疑ハル又「^ト」ト港内南岡ト唱フル所ニ於テ
溶化石ノ中ヲ貫通スル奇異天然ナル洞門アリ
テ南岡ヨリ北岡ニ達ス洞門ノ入口ハ其幅十五
「^ト」ト其高サ三十「^ト」トニシテ屋根ノ如キ所
ハ其高サ急ニ四十「^ト」トヨリ五十「^ト」トニ登

リ建築家ノ穹隆形ヲ作ル者ノ如ク且絶頂ニ奇
石アリテ恰モ人造ニ髣髴タリ且此洞門ニ海水
流通シテ小舟往来スヘシ尚許步ノ洞門アリ其
一ハ長サ五十「^ト」トニシテ本港ヨリ高岡ニ通
スヘシ土人常ニ獨木舟ニテ往来セリ
本島ノ土質ハ礦物ト各種ノ緑石トヲ混シ又圓
柱形ノ溶化石ヲ含ミ加之「^ト」ホルンブレンド「^ト」ノ礦物
白瑪瑙アリ本島ハ往時噴火山タルノ證ヲシ往
昔「^ト」ル島ニ居住セシ者ノイヘルハ地震地タ
ルノ明證ニハ方今ニ至リ毎年地上兩三動スル

事アリト

ロイド港ハ「^ロ」島ノ中央ニシテ其西部ニ在
リ本港ハ海中頗ル深ケレト船舶ノ出入ニ容易
ニシテ碇泊スルニ風波ヲ防キ甚タ安全ノ地ナ
リ碇ヲ投スレバ十八尋ヨリ二十二尋ニ違ス本
港ハ「^ロ」氏ノ海図ニテ北緯二十七度五分
ト三十五秒東經百四十二度十一分ト三十秒ニ
在リ然レ共「^ロ」氏ノ船ノ船將カ測リシ
所ニテハ東經百四十二度十六分ト三十秒ナル
ヲ以テ「^ロ」氏カ測リシヨリ五里東ニ在リ

蓋シ「^ロ」氏ノ謬誤ナリ本来良港ト称スル
ハ風アル時ニ当テ港内ノ船舶自在ニ動揺シ風
下ニ向フ程ノ深サト廣サトアリテ入港ニ便ナ
ルヲイフ「^ロ」氏カ本港ノ方向ヲ定メタル
説ハ實ニ正説ナルヲ以テ彼理氏カ説ト合セテ
之ヲ附録ニ載ス
樹木ハ来着スル船舶屢々切取り積ミ去ルト虽甚
タ夥シ水ニ亦十分ナリ流水ヲ汲ム其性甚タ良
シ居宅ヲ立ル木材ニハ乏キ所アリ若シ多人數
渡来シテ家屋ヲ建築セハ忽チ用ヒ尽スヘシ本

島ニ生スル樹木ノ類ハ「ヤマナ」詳ホト野ノ生桑ノ兩種
トス「ヤマナ」ト称スル木ハ「ブラシル」メキシコノ「リットウ」
トドホキ木ノ類ニテ能ク永久ニ堪ル木ナリ
ロイド港及ヒ其近海ハ良種ノ魚類極メテ夥シ
ケレハ珊瑚頗ル多クシテ海中ニ列ラ為シ大綱
ヲ引ク事アタワス是故ニ釣成ハ小綱ヲ以テ之
ヲ取ル漁獵ノ良地ハ海濱ヨリ珊瑚ノ列ヲ為シ
タル地部ニ近接シタル深キ海中ニテ「テン、ハ」
ゾム、ホ」ルノ十尋坑ト称スル所ニ在リ魚ノ種類
ハ甚タ少シ嘗テ「ユスコイハ」ナ船ニテ大綱

ヲ扱セシニ僅ニ五種ヲ得シノ之即チ鰯一種鱸
ニ種ガル未一種尋常ノ鱸一種ナリ沙魚甚タ多
シ其小ナル者ハ珊瑚石ノ間ニ遊泳シ犬来リテ
之ヲ捕ヘ砂上ニ揚クル事アリ
又本島ノ海中ニ綠色ノ亀多シ渡来ノ船舶多ク
之ヲ取テ食料トス又刺蝮多シ螺類極メテ多ク
レハ珍奇ナルハアラス「チャマ、ジ」ガスト称スル貝
ハ食料ニ供フヘシ然レハ堅クシテ消化シ難シ
其他ニ食フヘキ貝類ヲ見ス蟹ノ種類甚タ多ク
シテ数フルニ違アラス就中陸蟹多シ其大小形

状色澤各同一ナラス其最モ多キハ世ニ海賊又
宿借ト称スル者トス此海賊ハ其脊ニ或ハ白色
或ハ黒色或ハ大ニ或ハ小サク或ハ圓ク或ハ長
ク大小形状色澤悉ク相同シカラサル貝殻ノ捨
レタルヲ見テ之ヲ奪ヒ以テ己カ舎トシ本来ノ
住居ナシ是故ニ海賊又寄舎蟲ノ名アリ
海陸ノ鳥類甚タ少ク實ニ怪ムヘシ陸上ニ住ス
ル鳥類僅ニ四五種ニ過ス其最モ大ナルハ鳥鳩
ノ兩種ニシテ其他ハ皆小鳥ナリ又海中ノ鳥類
ハ鷗ト他ノ一兩種ノ海鳥ノミ本島ノ近海ニ至

レハ頗ル巨大ニシテ其翼ニ光澤アル海鳥ヲ見
ルトイヘリ
四足獸ハ羊鹿豕山羊且猫犬多シ猫ト犬トハ其
初具主アリツレモ今ハ之ヲ失ヒ原野山林ニ住
シケレハ土人大ニ残シテ其類ト称シ其飼フ所
ノ犬ヲ使役シ以テ之ヲ捕フ往時「スタツプレト」
島及ヒ自餘ノ島嶼ニ未住セシ人民山羊ト豕ト
ヲ植シカ方今ニ至リ「スタツプレト」ノ山羊異常
ニ多ク播殖セリ彼理氏モ「ベ」ル島北部ノ海岸
ニ牝牛ニ頭牝牛ニ頭ヲ残シ又北島ニ上海産ノ

圓尾羊五頭ト山羊六頭ヲ留ム是レ後日播殖セ
シノシカ為ナリ
無人島中ニテ居人ノ多キハ「ペール」島ナレバ彼
理氏ノ到リシ片ニハ僅ニ三十一人ニ過ス就中
亞國人種三四人英人三四人葡萄牙人一人其他
ハ「サンドウ」人及本島ニテ出產シタル兎葷ナ
リ土人各一地ヲ耕シ番薯玉蜀黍冬瓜葱「ハ」口「ホ」詳
及ト諸種ノ菓實ヲ植エ其最モ多キハ西瓜「バ」ナ
ナス「ホ」詳鳳梨トス此地上ノ產物ヲ豕雞鴨杯ト共
ニ貯ヘ置キ入港シタル鯨獵船ニ鬻ク物品トス

「ユ」コイハ「ナ」船本港ニ四五日碇泊セシ間ニ
於ラ亞國ノ鯨獵船二艘英國ノ鯨獵船一艘入港
シテ小舟ヲ浮ヘ土人ノ許ニ到リ食料ヲ求メ出
港セシ者アリ土人焼酒製ノ飲料ヲ好ムヲ以テ
本船中ニ鬻シ来ル焼酒ト右ノ食料トヲ交易セ
リ土人筋骨ヲ厭ハサレバ尚廣ク耕シ得ハシ方
今土人ノ耕作スル地ハ諸所ニ散在シ多クハ海
濱ノ低クシテ海水ニ接スル所ニ在リ又海岸ノ
平地ニモ在リ其低キ所ニ山上ヨリ新ナル溪水
流レ来リテ作物ヲ培養セリ其閑墾シタル地面

島中ヲ總計シテ僅ニ百五十「ア」クレ「ス」一「ハ」ア「ク」ガレ
四段ナリハニ過ス地質ハ甚タ肥腴ニシテ本島ト
同緯度ノ「マ」デイ「ラ」カ「ナ」リ「ア」西島ニ異ナル「ナ」
シ本島ハ葡萄ヲ作ルニ適地ニシテ又小麦煙草
日蕨及ニ自餘ノ草類ヲ作ルニ妙ナリ土人既ニ
其自用ノ日蕨煙草ヲ植ル「ト」實ニ多シ「ベ」ル島
ニ居住スル人民ハ洪福ニシテ不足ナカルベシ
歐洲ヨリ未往セシ者ハ其坐右ニ心思ヲ慰メ閑
化ヲ進ムルノ具ヲ備ヘ以テ其意ニ適ス居人其
室内ヲ数局ニ分テ支那製ノ壘ヲ敷キ其壁ニハ

画幅ヲ掛ク椅子一兩脚ヲ並ヘ食盤ヲ出シ又壘
色ニ區分シタル物品及ニ各色ノ石版ヲ備ヘ以
テ自己ニ鬱悶ヲ破ル「ル」ニ非ス戲玩ノ具ヲモ
備ヘ眼月ヲ樂マシムルノ一助トセリ
本島ニ未往スル「サ」ン「ド」ウ「キ」ス人ハ航海家交易家
ノ親シク目撃スル如ク其本國ニ齋シク標幟ヲ
集メテ屋上ヲ覆ヒタルヲ以テ恰モ「サ」ン「ド」ウ「キ」ス
島ノ一村ヲ携ヘ来ル者ニ似タリ爰ニ居住スル
者ハ氣候平穩ニシテ身体ノ健康ヲ進メ且土地
豊饒ナレハ僅ニ筋骨ヲ勞シ飲食ニ乏キ「ナ」キ

ヲ以テ皆依然トシテ故國ノ情ヲ起ス者ナシ是
故ニ亞國人改洲人等「カ」カ婦人ノ貞實善良ナ
ル者ヲ撰ビ細君トシ居住セリ
提督彼理氏本島ニ碇泊スル「」暫時ナリト雖務
メテ「」島内ノ変跡ヲ密ニ探索セント欲シ
ケレハ一隊ノ人員ニ命シ之ヲ分テ二列ト為シ
其一列ハ士官「バ」イヤルド「タ」イロル氏ヲ以テ長
官トシ其一列ハ副外科医官「フ」ア「ト」ス氏ヲ長官ト
シ内地ニ入テ探索セシメタリ
右西氏提督ノ命ヲ奉シ密ニ探索セントノ目的

ナレバ忽チ旅装ヲ調ヘ六月十五日早朝船中ヲ
立出ケリ「タ」イロル氏ノ麾下ニ属スル者ヲ同氏
ト共ニ八名トス即チ「バ」イヤルド「タ」イロル氏エ
長「」ト「」氏傳令官「ボ」トルド「マ」ン氏器械補官「ラ
ウ」レン「シ」氏管食官「ハ」ム「ブ」ア「ト」ン氏海兵「ス」ミ「ツ」ツ
氏水手「テ」ン「ニ」ス「テ」ル「リ」氏支那人擔夫一名ナリ
「」島ハ巖雨タル一島ニシテ其長サ僅ニ
六里ナルニ「タ」イロル「フ」ア「ト」ス兩氏ニ分レテ検査
スル「」ナレハ一日ニシテ容易ク明メ得ベシト
思ヘリ本島ノ北部ハ直ニ港口ニ接ス「フ」ア「ト」ス氏

検査ノ持場トス其南部ハ「ダイロル」氏検査ノ持
場トス即チ下ニ述ル所ノ如シ
十五日朝日出ニ「ジュスコイハン」船ヲ蓄レ小舟
ヲ浮ヘ港頭ノ汲水場ニ達シ上陸シテ諸人ニ食
料及セ弾藥ヲ分チ與フ此時属、土着ノ「カナカ」人
来リシ故嚮導ヲラン「」ヲ請タレ「」肯セス是ヨ
リ「カナカ」人ノ居所マテハ
へ三里トイヘリ是ニ於テ「カナカ」人ノ教フル所
ニ倣セ行シニ其路ハ滑道ニシテ峻急且回級線
中ニ生スル草類繁茂シ如之採擷多ク其間ニ西ナ

穀^ゴ米^{ベイ}樹ニ茂リ又寄生木アリテ樹枝ヨリ樹枝ニ
渡リ恰モ網ヲ張タルカ如シ此時未早朝ナルハ
密林叢樹ノ間ヨリ落ル白露密雨ノ降ルニ異ナ
ラサレハ諸人皆其水皮膚ニ徹シテ大雨ニ逢ル
カ如シ本地ノ地頂ハ「ロイド」港及セ自餘ノ地質
ト全質ニシテ壇形ノ岩石ノ破裂セシ者ト草木
リ腐敗セシ者ト相混ミテ生セシナルヘシ此壇
形ノ岩石トイヘルハ丘陵ヨリ脆性粗造ノ石大
ナル橙花ノ開キタルカ如ク破裂シテ周圍ニ黄
色ヲ帯セ落チ来ル者ナルヘシ又諸所ニ高十三

十「ト」トニ及フ大樹アリ白花爛熳トシテ既ニ
盛リテ過キ地上ニ落テ白雨ノ残レルカ如キ所
アリ
山上ニ登ル道路ハ丘背ニシテ遂ニ山頂ニ達シ
其間草木叢生シ又棕櫚葉ハ大傘ヲ張カ如ク大
木相接シ蔓草密細ヲ張ニ亦ニ日光之カ為ニ遮
ラレ白昼モ尚暗然トシテ二三トトノ外ヲ
洞視スルトアタハサレバ道ヲ誤リシトモ少ナ
カラス既ニ登リタレハ丘脊ノ側ニ數十ノ小流
アリ其邊リニ至レハ数千ノ陸蟹足音ニ驚キ其

穴ヨリ出テ奔リ去ル者幾千方トイフ數ヲ知ラ
ス
山上ハ縦横ニ一里若クハ半里ノ平面ニシテ波
紋ノ如キ凸凹ヲ生シ又深キ溝アリ山脊ノ一面
ニハ深キ凹路アリテ是夕峻急ナリ之ヲ下ルニ
ハ一樹ヨリ一樹ニ傳ワラサレハ下リ難シ其我
々タル峻山ノ間ノ凹路ニハ諸所ニ禿岩ハカカイワアリ其
餘ハ悉ク青草叢生シ此間一條ノ河流ヲ生シテ
岩石ノ上ヲ通シ草葉ヲ穿テ丘陵ノ下ニ流ル實
ニ原野ノ好風景ナリ

「バ」イナルド「ダ」イロル氏ノ一列「タ」ロ「ト」詳ト称スル
木ノ深林アル原野ヲ過キ之ヲ越テ其後口ニ出
タリ然ルニ此路嶮難ニシテ行ベカラサルヲ以
テ再ヒ「タ」ロ「ノ」樹林ニ飯リ河流ヲ渡リタル所ニ
溪谷ヲ隔テ村落ニ赴ク道ト覺ユル一道アリ路
傍彼此ノ地所ニ番薯「タ」ロ「煙」草甘蔗冬瓜「シ」グ「一」
名印度産「グ」シ「ベ」ル「レ」「盆」子ノ義ヲ植タリ其
播殖實ニ驚クベシ其時四方ヲ回顧スレハ一溪
ノ中央ニ当リ二本ノ棕櫚ニテ背タル小屋アリ
ケルヲ以テ其内ニ入り窺ヒ見シニ今朝マデモ

何人々住タル跡ハアレド一人モ其人ヲ見ス是
ニ於テ砲志ニテ土人ヲ誘ヒ出サバヤト思ヒ付
タレハ小銃ニ火ヲ點シテ一発セシニ忽チ大音
ニ叫ビテ出テ来ル者アリ之ヲ見レハ南海島住
人ノ種ニシテ其面ニ薄ク藍黧シ其身ニ粗製木
綿ノ襯衣ト袴衣トヲ着シタリ此一男子自ラ出
ルハ予ハ本ト「マ」ルコイガス島ノ内「ニ」カツノ産
ニシテ貴キ司法官ナリト「マ」ルコイガスニテハ
高貴ナル位階ト見ヘタリ彼レ自ラ一舎ヲ構ヘ
耕作スヘキ一地ヲ設ケテ犬數匹豕四疋ヲ飼ヒ

清潔ノ形勢ナリ予等ニ丁寧ヲ尽シ且彼カ部下
ニ命シテ親切ニ百隻ヲ告シノ又自ラ彼カ往ム
所ノ溪ハ山稜ヲ回リ海岸ノ西方ニ至テ始テ閑
クトイヘリ司法官溪流ヲ指シテイヘルハ此河
小流ノ如シト雖其水量獨木舟ヲ浮フルニ足ル
我レ今一舟ニ棹ニ綠鳧ヲ捕ヘ飯リシ所ナリト
彼レ自ラ一大亀ヲ擣ヘ来リ之ヲ屠リテ四足ノ
大ヲ呼ビ分チ與ヘケレハ犬欣然タル容貌ニテ
忽チ喰セ尽シテケリ
司法官又予等ニ向テイヘリケルハ我レ能ク諸

君ヲ本島南部ノ極西ニ嚮導セシ然ルニ往来ス
ヘキ道路ナク大約其里程三四里モアルナラシ
ト此時又司法官一漢ヲ呼ビ寄タリ其名ヲ「タ
ヘ」トタシト呼フ其顔色銅色ニ齊シ僅ニ英語ヲ
弁スラタヘ「タシ」自ラ南部ニ至ル道ヲ知リ又
能ク野熊ヲ獵ストイフ然レモ司法官行キ給ハ
サレハ諸君ト共ニ行ク隻ヲ欲ヤスト答フ司法
官其初ハ遠巡シテ承諾セサリシカ過刻捕ヘ来
リシ亀肉ヲ收メ終リタラハ諸君ト共ニ南部ニ
赴ント同意シケルヲ以テ予等モ亦然ルヘシト

答へタリ

司法官カ住ム所ノ谷ハ其長サ大約洋里ニテ一
里其幅ハ最モ廣キ所ニテ一里ヲ四分スルノ一
トス此谷兩三條ニ分ル予等カ己ニ通行シタル
ハ其小ナル者ニテ其大ナルハ東ニ向ヒ中央ニ
小河アリ此谷ノ南部ハ岩石累カトシテ恰モ大
堤ヲ築キタルカ如クナレハ實ニ往來スヘカラ
ス司法官カ居宅ハ海濱ヨリ半里餘ノ所ニ在リ
本地ノ土質ハ真土ニテ土人ノ耕作シテ得ル所
ノ者ノ富饒ナルヲ以テ察スレハ地味極メテ肥

瘦ナルト見ベタリ煙草ハ殊ニ地質ニ應ヒテ其
高サ五ヒトニ及フ者アリ溪水ハ日味ヲ帶テ
清潔且終年一時モ絶ルナシトナシ司法官其
帽子ニ檸檬ヲ盛リ居リシ故何所ニテ取リシヤ
ト桑ニ谷ノ北ニテ取タリト答フ
司法官漸ク亀肉ヲ取メタルハ「夕」
カ郷導ニテ四路ニ流ルハ溪水ニ浴ヒ東南東ニ
向ヒ立出ケル諸此水底ハ所謂壇石ノ碎片相累
ハ溪辺ニハ田畝線中ニ生スル艸木及ヒ寄生木
多ク茂生シケレハ樹林ノ稠密ナルト土質ノ粘

滑ナルトニテ実ニ脚步ヲ進メ難ク二人避レシ
者アリ之ヲ待ントテ石ニ跨リ居リシニ一発ノ
砲声聞ヘシ故何ヤラント思ヒシニ二人来リテ
一疋ノ野熊ヲ見出シ之ヲ狙撃セシニ惜ムヘシ
中ヲサリシト答フ土人ノ飼フ犬ハ樹林ニ入り
野獸ヲ驅逐スルノ功ナク唯其主人ノ左右ニ
ミ在ルヲ以テ山中ニ連レ行ラニ其用ヲ為サザ
ルナリ
溪流ヲ高レテ凹道ノ南部ニ出ケレハ其道峻急
ニシテ樹根ニ攀チ或ハ大ナル蔓條ヲ撰ヒテ之

ニ依ヒ登リシニ樹陰深ク且樹枝路上ニ横ハリ
人跡ナキ地ナレハ各人皆別路ニ別レケル唯嚮導
ノ兩人ノミ早ク山頂ニ達シテ予等ヲ待居タリ
暫時ニシテ各人皆登リ来リ相見レハ其手ニ疵
ヲ受シ者アリ是レ路上ニ柵欄多ハ其間ニハル
マ、ラチホト詳ト唱ラル木アリテ其幹ハヒトト餘
其葉頗ル廣ク葉角ニ刺ヲ生シ之カ為ニ傷ラレ
シナリ又ハシガニコト稱スル木アリ此木直
幹ニシテ其下部ヨリ二三十ノ嫩芽ハシヲ生シテ地
中ニ入ル其形金宇塔ニ似タリ其上部分ハ圓柱ノ

如ク長ク延テ上端ニ青々タル葉ヲ生シ甚タ美
ハシ
同伴ノ内ニ於テ遅レシ者アリシ故山脊ニ止リ
待居タルニ比隣ノ溪中ニテ大ニ犬ノ吠ル聲頻
リニ聞ヘケレハ直チニ兩人立向ヒケリ其後モ
尚砲声聞ヘケル故長官「ナイロ」氏モ砲声ノ地
ヲ目的トシ深キ樹林ヲ押分テ行ケルニ野熊ノ
巢窟アリ小流ノ所ニ至リ見レハ同伴ノ壯士等
小熊ヲ捕ヘテ圍ミ居レリ其熊ハ生レテヨリ未
タ一歳ニ滿スニテ鼻長ク毛色黒灰色ヲ帯ヒ甚

夕不潔ヲ極メ其形状恰モ支那ノ豕ノ如シ其時
同行ノ「ハムプト」氏独リ山脊ニ残リタルヲ以
テ司法官彼ヲ迎ヘントテ馳セ行タリシカ忽チ
飯リ来テ「ハムプト」氏ハ病魔ニ罹リテ来リ得
ストイフ然ルニ同氏大ニ疲労シタル共暫時ニ
シテ快復シ予等カ許ニ至レリ「ハムプト」氏快
復シタルニ疲勞未タ残レル故同伴皆是ヨリ飯
ラレヨト勸ム「ラタヘ」タニニ里程ヲ問ヘハ島
南ノ極所マテ僅ニ二里ト答フ「ハムプト」氏之
ヲ聞テ二里ナラハ我儘ク行ントイフサラバト

テ彼ノ小熊ノ肝臟ト腎臟トヲ取り其死体ヲハ
樹枝ニ挂^掛テ各、南部ニ立出ケル
夫ヨリ大約半時ヲ経テ山脊ヲ越ヘ南部斜地ノ
絶頂ニ達ス本地ヨリハ既ニ海水モ見ヘ又正南
ヨリ少シ西ニ当テ遙ニ「バイレ」島ノ景色モ聳
ヘテ見エ是ヨリ尚進ミ行ントスルニ「ヲタヘ」
タシ氏道ヲ誤リタルヲ以テ行路半陽岩石峻急
ニシテ下ルヘカラス又前路ニ飯テントスルモ
嶮岨ニシテ野草满地ニ叢生シ葡伏セサレハ飯
ルヘカラス是故ニ同行皆二百「ヤルド」ノ間辛ク

シテ登リ漸ク嶮岨ヲ過タルニ又急ナル下リ段ナリ
諸氏皆坂ヲ背ニシ滑リ下リ益々急所ニ至レハ蔓草ヲ
力ニシ或ハ地ノ凸キ所ニ手ヲ掛テ急ニ落ケル様用
心シテ下リ漸ク凹路ニ達シタレドホ夕海濱ニ流ル
、溪流ナク十^七トヨリ五十^七トノ断岸アリテ
之ニ登リ此難路ヲ経サレハ海辺ニ下リ得サルヲ以
テ同行皆大ニ困迫セリ夫ヨリ或ハ先子或ハ後レテ
漸ク小流ノ側ニ下リ其先ツ下ル者今尚岩稜ヲ傳ヒ
嶮路ヲ下リ来ル見レハ我ニ既ニ彼嶮路ヲ能コソ恙
ナク下レリト思ハレテ實ニ身体戦慄ヲ催シタリ

「クヘータン」氏一江ヲ指シテイヘルハ之ヲ南東江ト
稱ス鯨漁船ノ屢来ル所ニシテ其来リタルヲ證セン
トテ大弁ヲ以テ一樹ヲ切り其断痕ヲ平ニシ置シカ
今尚存在スト本地ノ河岸ニ於テ雜艸ト共ニ番茄ノ
生セシ者アリ是レ自然生ニ非ス嘗テ人手ニテ植シ
者ナルヘシ借諸曰難路ニ慙ミ大ニ疲労シ且冬暑焼
カ如クナレト皆一所ニ会シ火ヲ焚テ今朝捕ヘタル
小熊ノ肝臟ト腔臟トヲ出シ又携ヘ行タル豕肉及ヒ
其他ノ食料ヲ合セ煮テ之ヲ食ヒ各臨時ノ盛饌ナレ
ハ貪リテ滿腹ニ至リ疲労ヲ慰シ休息シマレハ既ニ

二時ニ至テ飯路ニ赴ントス此時「クヘータン」
前路ヲ經テ飯ラント云ヒ故諸氏皆復前路ノ
艱難ヲ想像シ其危峻ヲ恐怖シテ顔色樂マズ然
ルニ他ニ飯ルヘキ路ナケレハ止ム事ヲ得ス前
路ヨリ飯リタレト飯路ハ熟路ナレハ疲労ヲ累
ネシノミニテ「クヘータン」等兩氏ニ誘ハト同
法官カ居宅ノ山溪ニ飯着シケリ
司法官カ許ニ飯リテ時計ヲ見レバ既ニ六時ナ
ルヲ以テ同氏カ宅ニテハ實ニ暫時休息セシノ
ミニテ立出ケルニ同行ノ一人大ニ疲労シテ歩

行ニ得サルヲ以テ「ヲタヘ」トシ氏ニ頼ミ獨木
舟ニテ「ロイド」港ノ南端「カトカ」人ノ住所ニ送り
其他ハ皆今朝来リタル陸路ヨリ「飯ラント」立出
タリシカ道見ヘスレテ「鬱林」ニ入り又雜草多ク
加之路上ニ凸凹アリテ困ソリ途中ニテ又同伴
ノ一人大ニ疲レ歩行シ難キカ故ニ山上ノ平地
ヲ撰ヒ一人ヲ添ヘテ残シ置キ「ロイド」港ノ南端
「カトカ」ニ達シ本港ニアル岩上ニ坐シ本船「シス
コイハン」ナヲ見シハ暗夜朦朧ノ中ニアリ是ニ
於テ「飯着」ヲ表センカ為ニ小銃ヲ連発シヌレバ

本船ヨリ小舟ヲ浮ヘ来リシ故彼疲労ノ者ヲ迎
ヘ同伴悉ク之ニ折乘リ「シスコイハン」ニ「飯」リ
シ時ハ既ニ十時ナリ衆皆實ニ疲労ヲ極メタリ
副外科医官「フアイ」氏モ同時ニ「飯着」シタリ今日
同氏ノ經過シタル途中ノ事跡ハ左ニ述ル所ノ
如シ
「フアイ」氏等本島ノ地質ヲ検査セシニ諸所ニ於
テ火脈ノ噴出シタル痕跡アレハ其初噴火山タ
リシト疑フベカラス所謂壇形ノ石類ハ鐘乳石
ト録名ト相混シタル物ニシテ本島ノ基礎ヨリ

其丘陵ニ至ルマテ悉ク此石類ヨリ成ル本地ノ
凹路ニ一ツノ硫黄泉アリ之ヲ嗅ニ其氣猛烈之
ヲ味ヘハ硫酸瓦斯ナリ又諸所ニ硫鉄多シ島中
ニ生スル所ノ草木本島ト全緯度ノ噴火地ニ在
ル種類ヲ見ス「ロイド」港ハ強キ噴火山ノ噴口ナ
ルヘシ其火ヲ噴出スルニ当テ方今ノ港口ハ周
圍ニ丘陵ヲ生シ其側ニ深キ溝渠ヲ生スルカ如
クニテ其坑中ヨリ熔解シテ流レ出ル所ノ物品
悉ク溝渠ヨリ海中ニ落テ鎮火ノ後一灣ヲ生シ
テ海水ト灰烬トヲ残留シ水氣漸々枯渴シテ唯

珊瑚ノ残餘ヲ止メ港底ニ沈在セシ者ナラン
本島ノ地形同一ナラス平地ハ丘陵ノ下ヨリ海
岸ニ達シ其土質ハ黒色ニシテ植物ヲ培養スヘ
キ糞土トス其深底ハ珊瑚ニシテ表面ハ此糞土
ニ貝殻石類ヲ混シ其深サ五「セ」ト乃至六「セ」
ト沈滞セシ者ナリ此平地甚夕肥腴ニシテ既ニ
開墾セシ所ニハ殆ト巨大ナル番薯玉蜀黍「ヤム
ス」^{「タロ」}未詳ニ西瓜野菜類殊ニ頗ル巨大ニシテ良
種ノ甘蔗ヲ生ス常テ「アイリス」^{「ス」}名ノ薯種ヲ齎シ
来リ之ヲ植テ試シニ其年月未タ久シカラサ

レハ地質ニ應スルヤ否ヲ知ラ江口ノ平地ハ開
墾セシ所未ク甚々厩ナレ氏他所ノ肥腴ナルヲ
以テ察スルニ江口モ亦肥地ニシテ之ヲ開カバ
多人數糊口スヘキ物品ヲ生セサルノ理ナカル
ヘシ
本島ノ丘陵ハ平地ヨリ漸次ニ登ル者アリ又俄
然トシテ急ニ登ル者アリ其俄然トシテ登ル者
ハ一ノ臺上ニ又一臺ヲ重ネタルカ如シ江頭ニ
屹立シテ相對シタル兩峯アリ之ヲ乳頭山ト称
ス其一山ハ一千七百ト其一山ハ一千百ト

トイフ此兩峯遙ニ海上ヨリ港口ニ當テ見ヘ恰
モ航海客ニ港口ヲ示スカ如クナレハ實ニ航海
ノ要峯ナリ「アリス」氏ノ検査シタル北部半島ニ
ハ湧水少クシテ唯ニ泉ノ之ナレ氏清淨ナル飲
水常ニ絶ル時ナレ此ニ泉ノ外溪中諸所ニ湧泉
アレ氏塩氣ヲ帯ビ且乾枯スルヲ以テ頼ムヘカ
ラス雨候ニハ溪間ノ凹路ニ數條ノ小河ヲ生シ
海中ニ落レ氏河底巖石ナレハ晴候ニ至レハ僅
ニ水氣アルノ之ナリ
草木ノ種類ハ回岐線中ニ生スル草木ニシテ本

島ト同緯度ノ地位ニ生スル者ノ如ク青々トシ
テ暢茂セリ溪中及ヒ海渚ニ一種ノ大木多シ土
人^ク之ヲ^クリ^ユタ^トト唱フ此木ノ幹ハ大ニシテ短
ク灰色ノ皮アリ其葉ハ密ニシテ枝ノ周圍ニ叢
生シ其葉ノ状ハ楕圓ニシテ綠色ヲ帯ヒ表面平
滑ナリ其花ハ枝端ニ開キテ白色ナリ
棕櫚ハ丘陵ヨリ右右ノ溪中ニ至ル迄鬱々トシ
テ繁茂シケレバ其本体ヲ見定メ難キ程ニテ他
樹ノ力為ニ壓セラレ成長シ難キ者アリ島中ニ
生スル棕櫚六種アリ就中「ハンバル」ト称スル

棕櫚最モ多シ又木種ノ内ニ於テ頗ル巨大ナル
山^ナ毛^キ榉ノ一種アリ又「ドグウ」^ドノ大木ニ類似シ
タル一種ノ大木多ク山上ニ見エ桑樹ト殊ニ多
分ニシテ其周圍十三「ヒ」トヨリ十四「ヒ」ト
及フ者少カラス矮小ナル草木ノ類ハ桂樹杜松
柘植^バ蕨^ナ十^ナ橙^ナ鳳梨^ナ越^ナ橘^ナトス「リ」^ナ「チ」^ナ「ス」^ナ「モ」^ナ「セ」^ナ「ス」^ナニ
未^ナ詳^ナ義^ナ及ヒ寄生木ノ種類甚多シ野草ノ種類極
メテ少シ偶々多ク生スル者アレバ牧畜ノ食料ニ
供ヘ難シ又未夕開墾セサル地ニ生シタル一種
ノ野草アリ此草漫リニ繁茂シテ他草ヲ生セシ

ノス
島中ニ数種ノ獸類ヲ放チタレ氏雜草ノ中ニ卧
シ大樹ノ間ニ往来セシヲ以テ悉ク野生ノ獸類
ニ化シタリ鳥類ハ鳩ツグ鴛ウ鳥サ「サンドバイブル」未詳
未住シ又龜大蜥トカゲ場小蜥場多シ是レ島中從來ノ
者ナルヘシ
右ニ述ル如ク「ベール」島ハ既ニ兩氏ニ命シテ檢
査セシメタルヲ以テ提督彼理氏又士官某氏ヲ
招キ「スタップアル」トシ島ノ地質地形及ヒ其要件ヲ
檢査セシメシメントス「スタップアレト」島モ亦其初噴

火山ニシテ平地丘陵溪谷アレ氏開墾スヘキ地
位少キニ非ズ本島ノ西部ニ一小江アリ海水意
外ニ淺シ其周圍ニ八十「ヒ」トヨリ一千五百「ヒ」
トトノ高山岩石直立シ以テ本江ノ南東ヨリ来
ル大風ヲ防ク屏障ト為ル物ノ如シ
本江ハ小岬ト珊瑚石トニテ其周圍ヲ繞ラシ北
部ニ接スル所ノ岩間ヨリ清凉ニシテ美味ナル
一泉ヲ生ス其水量一分時間ニ三「ガ」ルロニル「ガ」
ンハ大約我ヲ出ストイフ「スタップアレト」島ノ産
物モ「ベール」諸島ト異ナル所ナシ唯山羊ヤギ大ニ播

殖シテ数千足ニ及セタレ氏峻山ヲ越ヘ絶壁ヲ
跳リ生育セシヲ以テ性質悉ク野獸ニ変シタリ
彼理氏從來西国交易ノ為ニ自ラ無人諸島ノ地
形及ヒ其要件ヲ検査セントスルノ企望アリシ
ガ今ヨール島ヲ撰シテ後日「カリホルニヤ」ト支
那トノ間ニ往来スル蒸気船ノ碇泊所トセント
ス是故ニ彼理氏地形ヲ検査シ港内ヲ探索シ又
後日ノ食料ト為シカ為「ベール」スタップレットニ
島ニ数足ノ獸類ヲ放テタリ彼理氏又土人ニ野
菜穀類ノ種子ヲ與ヘ且後日用フヘキ農具及ヒ

獸類ヲ放テシ所以ヲモ土人ニ申聞セタリ此外
日氏政廳埠頭石炭庫蒸気船會所ヲ設クヘキ地
所ヲ天撰ヒ之ヲ本国ノ私有トス其地位ハ江頭
ノ北部ニシテ其長サ千「ヤルド」ノ海水ニ面シ就
中五百「ヤルド」ハ海濱ニ接シテ深キ所ヲ撰ニ海
中五百「ピート」ノ所ニ避波ヲ設ケ以テ大船ノ碇
泊スルニ備フ
提督彼理氏右ノ如ク検査セシヲ以テ西国蒸気
船碇泊所ハ「ベール」島適應ノ地タラシ「一書
ニ記シ之ヲ本国ノ海軍局ニ達ス其文ニ曰ク

拙者常ニ太平洋海中ヲ往復スル船舶ノ碇泊所ト
集會所トヲ檢出シ定メント希望致シ居候間此
行ノ初ヨリ琉球港ト無人島中ノ良港トヲ撰ヒ
碇泊所トシテ恰モ連環ノ相連リ驛程ノ相續ク
ヲ如クシ以テ飛騰蒸氣船往來スル線路ノ休泊
ニ備度候今太平洋海中亞国ニ屬スル海港ト支那
ノ海港トニ蒸氣船ノ往來セハ此盛代ノ歴史ニ
モ稱譽スル所ニテ亞国并ニ世界萬国交易ノ為
ニ至要至切ノ良港ニ可有之存候
合衆国ト歐羅巴トノ飛脚船ハ「エデーブト」紅海

印度海ヲ經テ一月中ニ週毎ニ日數ヲ違ヘス必
ス香港ニ達申候香港ヨリ上海マテハ五日ノ海
路ニ有之候上海ヨリ「カリホルニヤ」マテ合衆国
ニテ船ヲ出シ候ハ上海ヨリ歐洲マテノ海路
ハ英國ニテ船ヲ作り必ス出シ可申候
蒸氣船ニテ上海ヲ出帆シ無人島「サントウ井」ス
諸島ヲ經テ「サンフランシスコ」ニ達スルニ薪水
等ノ為碇泊スルヲ三日ト定ノ三十日ニテ來着
可致候是故ニ「サンフランシスコ」ヨリ「サレドウ
リス」島中「ホノル」マデノ里數大約二十九十三

里「ホノル」ヨリ「ペー」島マテ三千三百〇一里
「ペー」島ヨリ上海河口「ヤシ」ツ「ケ」マテ千
〇八十一里總計六千四百七十五里有之候一日
ニ二百四十里程ニシテ海上二十七日碇泊三日
ト定ム又「サン」フランシスコヨリ「ニューヨーク」マ
テ二十二日程十レハ上海ヨリ「ニューヨーク」マテ
總日数五十二日ニシテ着ニ可申候
英国ヨリ徑路「マルセル」ス「フ」經テ香港ニ到ル
ニハ其日数四十五日乃至四十八日ニ相成候此
日數ニ香港碇泊二日上海碇泊五日ヲ加ヘ候得

ハ五十二日ヨリ五十五日ニテ上海ニ到着可致
候
上海ヲ英国蒸氣船ノ往來スル極巧ト定メ又亞
国蒸氣船ノ往來スル始ト相定メ申候右故英国
船ノ持子飯ル書簡ハ之ヲ西ニ送テ「リウ」エルボ
ルニ達シ亞国船ノ持子飯ル書簡ハ之ヲ東ニ送
テ「カリ」ホル「ア」ニ達シ其日数大約同日ニ可有
之候
右ノ船路ヲ備ヘ交易ノ便利ヲ得候ハ、貨財ヲ
得ルノ利ヲ論セズ拙者世ニ至要ナル業畧ヲ得

タリト名譽ヲ可得候又既ニ數十年未支那人カ
ルホルニ了ニ渡来致シ候者其船中薪水ヲ除ク
ノ外自費ニテ諸品ヲ備ヘ一人前五十弗宛ニ有
之候
支那人ハ質朴ニシテ能ク使役ニ堪ユル性アル
ヲ以テ「カリホル」ニ了ニテ農業ニ從事セシメ度
候
上海ハ方今支那ノ大交易場ト相成リ殊ニ合衆
国ト交易ヲ開キシ以來ハ廣東ニモ越ヘ申候併
シ同国ノ産物上茶絹糸其外高價ナル奇物ヲ蒸

氣船ヲ出シ五週ニテ「カリホル」ニ了ニ送り八週
ニテ「ニューヨーク」ニ送り候様迅速ニ致シ候テモ
其利益アリヤ否ヤ先見致シ難ク候
亞國ニテ東海ニ交易ヲ開ント欲セハ無人島
ハ實ニ至要ナル地トス其證ニハ彼理氏級国
後ニ至テモ尚心中ニ止メ此書ノ草稿ヲ終リ
テ後左ノ追記ヲ編輯家ニ授ケ増補セシメシ
ナリ
無人島追記
予嘗テ以テ為ラク無人島ハ太平海中ヲ往返ス

ル船舶ノ碇泊所ニ無二ノ適地ナリト又以為
ラク太平洋海中無人島近海ニ赴ク鯨獵船ノ薪
水及ヒ食料ヲ求ムルノ妙地加之カリホルニ
了ヨリ日本ヲ經テ支那ニ航海スル船舶ノ石
炭ヲ貯蔵スルニ無二ノ地位ナリト是故ニ我
共行ニ於テ無人島ニ到ラサルヲ得サリニ
ナリ

無人島ト亞細亞海トノ間ニ於テ鯨魚多ク殊
ニ日本近海ニ多シ帝國日本ハ獨立ノ國ニシ
テ他國ト交通セサル國風ナレハ其手ニ陥リ

或ハ凶囚或ハ慘刺ノ處置ヲ受ニテヲ恐レ鯨
獵船モ取テ其海濱ニ近ツク者ナレ然ルニ今
日ニ至テハ既ニ日本ト條約ヲ結ビ盟文アリ
又不幸ニシテ日本海岸ニ漂着スル亞船又猛
風ノ為ニ破損シ其修復ヲ加ヘントテ入港ス
ル亞船ハ親意ヲ以テ待遇セメントイヘル保證
アレハ衆皆更ニ恐怖スルヲナカレ箱館下田
ノ兩港ニ船舶修復薪水給與ノ為ニ既ニ開港
アリ
前條ニ示ス力如クナルヲ以テ亞國ノ鯨獵船

後未ハ日本海殊ニ東海ニ於テ何ノ障^{サワ}碍^リナク
安全ニ其海濱ニ入港スヘシ然レモ我カ鯨獵
船ヲ日本ノ港内ニ其国法ノ制禁ナク又其国
民ノ妨^{サマ}障^{タケ}ナク安然自由ニ出入マシメ難キ所
アリ是レ一ツノ缺典トス既ニ條約書ニ日本
ニ於テ箱館港下田港^球琉^球ニ於テ那波港ヲ開
クト雖皆從來鎖国ナルヲ以テ土人外国人ヲ
見テ或ハ惡^ミ或ハ嫉^ムノ風習急ニ脱シ難ク
又鯨獵船ノ水夫モ粗暴過激ナルカ故ニ實ニ
急速相親和シテ交通ニ難カルベシ是レ予カ

無人島ヲ関クノ議論ヲ主張スル所以ナリ予
カ見テ以テスレハ本島ノ何レノ管轄ニ屬ス
ルヤヲ論ヤス左ニ示ス如ク無人島中ノ大島
一^レニ港ニ殖民スルヲ良策トス予既ニ此紀
行ニ於テ詳ニ本島ノ事跡ヲ述ヘ今又加フル
ニ人民ヲ殖ヘ家屋ヲ建ル事ヲ以テス若シ予
カ此策ヲ施サハ後來其殖民全島ニ播殖スヘ
シ
若シ予カ策ニ決定スル時ハ先ツ数名ノ工匠
ト相謀リ又同社ヲ結ビ資本ヲ聚メ一^レニ島

ニ殖民スヘシサレト其入費モ恐ラクハ多量
ニハ至ラサラン先ツ三四百噸ノ船ニ艘ヲ作
リ鯨獵ノ用意ヲ為シ倉庫住舎ヲ作ルヘキ木
材ヲ積ミ送り又雜貨舖海軍需用品其他鯨獵
船商船ニ要用ナル諸品ヲ備フルニ缺ヘカラ
サル要具ヲ送り此船^ノ島ニ到着セハ殖
民ト荷物トヲ揚ケ日本海及ヒ其近海ニテ鯨
魚ヲ獵シ時々本島ニ到ルヘシ此ニ艘ニテ得
ル所ノ鯨油既ニ一艘ニ積ヘキ量ニ滿タラハ
一艘ハ其鯨油ヲ本國ニ輸送シ復新ニ殖民ヲ

載セ且島中ニテ切要ナル物品ヲ積ミ来リニ
艘ニテ新陳交代スヘシ右ノ如クセハ殖民モ
スシカラスニテ播殖シ且此事件ニ関係シタ
ル同社モ裨益ヲ得ルニ至ラン此時ニ至ラハ
亞国英國佛國ノ鯨獵船^ノ島ニ輻輳シテ
来住ノ商家ニテハ船中必用ノ諸品ヲ求メ農
家ニテハ野菜ヲ求メ工匠ノ家ニテハ修復ヲ
頼マン若シ其代料ナキ片ハ右ノ船中ニ貯フ
ル鯨油ヲ取ルヘシ○其初本島ニ到リシ殖民
新ニ別宅ヲ構ヘテ産業ヲ営ムニ至ル迄ハ跡

ヨリ到ル者ハ新嫁ノ者ニテ先居ノ者ト同居
スヘキ者ノ外ハ漫リニ到ルヲ許サス斯ク
同居セシムル時ハ全教相親ニ洪福相共ニシ
テ異論ナク又故障ナク我カ教法ヲ傳フル基
本ヲ起スヘシ是ニ於テ傳教師ヲ招キ日本臺
灣其他近隣未開ノ諸国ニ遣スヘシ○方今「サ
ンドウ」諸島ヨリ日本海ニテ鯨獵スル船舶
其近隣ニ到ルヘキ海港ナキヲ以テ止ムヲ
得ス其漁獵スル地ヨリ數千里ヲ隔テ或ハ「サ
ンドウ」島ニ到リ或ハ香港ニ到テ其要品ヲ

求メ無益ノ時日ヲ費シ又無益ノ資本ヲ失フ
財主ハ之カ為ニ大ニ糜費シ水夫ハ疾病ヲ生
シ且放蕩懶惰ニ陥リ頗ル風儀ヲ破ルニ至ル
今「ソール」島ヲ開キ碇泊所ト為サハ鯨獵地所
ノ中央ナルヲ以テ往來ノ雜費ヲ省キ且水夫
等モ數年間ハ耽淫ノ地ニ遠カリ挺蕩ノ路ヲ
絶シムヘシ○無人島ヲ其始テ檢出セシハ日
本人ナルヲ以テ之ヲ管轄スル權威ハ實ニ日
本ニ屬ス日本ヨリ希望スルノ外ハ本島ヲ管
轄スルノ權威必ス先ツ殖民スル者ニ在リ

無人島ニ四日碇泊シテ「リュスコイハン」ト「サラト」
ガ、兩船六月十八日早朝出帆シテ再々環球ニ
赴カント其艤装ヲゾ調ヘケル



